Higashi Sapporo Hospital's Newsletter MADO

January 2020　No.100

2020年　思想のkeywords

Science is a universal language

理事長　石谷　邦彦

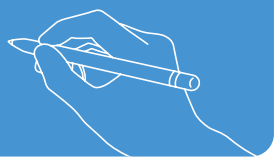
第3回がん緩和ケアに関する国際会議（Sapporo Conference for Palliative and Supportive Care in Cancer,SCPSC）が、本年2020年8月21、22日に当院の照井健院長を大会長として開催される。世界のそれぞれの第一人者が時代の最先端の研究を講演する魅力的なプログラムである。（http://www.sapporoconference.com/general_info/schedule.html）また本会から一般演題の募集も行われる。近年第1回からの内容が評価され各方面よりアジア地域での研究を主体とする学会への組織改変を要請されていた。またこの度British Medical Journal Supportive and Palliative Care（BMJSPCare）がSCPSCのofficial journalになる事が決まり本部からアジア地域での国際学会への昇格を促されていた。昨年10月理事会承認など諸手続きを経て正式にThe Internatinal Research Society of the SCPSCの呼称でがん緩和ケアの研究を主体とする学会として発足した。それを支えるアジア各国の著名な研究者が理事に就任している。同11月すぐにThe Rsearch Network of the European Association for Palliative Care（EAPC）の会長Dr. Augusto Caraceniから激励と今後の協働を希望するメールが送られてきた。その返信にEAPCが主となって作成されたプラハ憲章"palliative care as a human right"（2013年）の思想のもとにscienceを追究すると表明した。これがInternational Research Sosiey of the SCPSCの基本理念である（ただし我々は1983年の病院開設当初からホスピスケアの本質は人権の擁護であると主張してきた）。

そこで当院の2020年の思想のkeywordsを「Science is a universal language（科学は世界共通の言語である）」とした。sceinceの語源はラテン語のscientia（知ること）に由来する。そしてscienceはnatural science（自然科学）とhumanities（人文科学＝人為の所産を研究する社会科学sociologyと、人間本性を研究する哲学philosopy）から構成されている。ヨーロッパの人々にとってscienceがnatural sceienceとhumanitiesの両者の統合であることは自明である。しかし日本の多くの人々の間ではnatural scienceのみとする誤解がある。日本のがん医療界で金科玉条のごとく扱われているEBMもscienceのほんの一部に過ぎないのである。特にがん緩和ケアの研究はnatural scienceとhumanitiesの両者の追究が不可欠である。プラハ憲章の思想を基盤とするInternatinal Research Society of the SCPSCはnatural scienceとhumanitiesの両者の先鋭的な研究の展開を期待するところである。

Higashi Sapporo Hospital
医療法人
東札幌病院

2020年1月発行
発行責任者／病院長　照井　健
札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35
TEL.011-812-2311（代表）
FAX.011-823-9552
E-mail：info@hsh.or.jp
HP：http://www.hsh.or.jp

特別講演会報告



21世紀の保険医療システムにおけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（Universal Health Coverage）と緩和ケアの役割

2019年12月20日（金）、世界保健機関（WHO）健康開発総合研究センター神戸センター技官、Dr. Paul Ong（ポール・オング医師）をお招きして特別講演会を開催しました。ポール先生には、今年8月開催予定の第3回がん緩和ケアに関する国際会議（SCPSC）においてWHOを代表してご挨拶いただく予定であり、WHO本部が当院にポール先生を招聘くださったことは大変名誉なことです。

特別講演会のテーマは、『21世紀の保険医療システムにおけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（Universal Health Coverage：UHC）と緩和ケアの役割』でした。ポール先生はグローバルかつローカルな視点からUHCについて、WHO 神戸センターの役割について、緩和ケアがUHCを達成するために重要であることについて、講演してくださいました。

講演要約

●ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）定義（WHO2005）

『ユニバーサル・ヘルス・カバレッジとは、医療サービス（予防、健康増進、リハビリ、緩和ケア）を必要とする全ての人が、不当な経済的困難に陥ることなく、医療サービスを受けられる状態』と定義しています。UHCは、i）必要に応じた広範な医療サービスを享受できること、ii）利用した医療サービスに対する医療費の直接支払による経済的負担から保護されること、iii）全人口がカバーされていることの3要素から構成され、経済的、政治的な複雑な問題を含みながら互いに関連していると、立方体モデルを用いて解説してくださいました。WHOはPalliative Careの考え方を健康政策の基本に置こうとしています。2019年ベルリンで開催されたEAPCにおいても高齢化社会における緩和ケアの問題が取り上げられ検討されました。

●WHO 神戸センターの役割

1995年、WHO執行理事会決議と阪神淡路大震災からの復興シンボルとして神戸に設立されました。WHO直轄の部署であり、グローバルな任務と、地域や地元におけるそれぞれの役割を担っています。特に震災を教訓とした高齢者の見守り、認知症の早期発見、治療、介護者支援について言及した「神戸宣言」は2017年WHO総会で認知症に関するグローバルアクションとして採択されました。ポール先生は、関西地区の教育機関や自治体と連携して、高齢化を見据えた保健医療制度とイノベーションに関する研究を実施しながらUHCの推進を加速させるために精力的に活動しています。

●日本の保険医療システムにおけるUHCと緩和ケアの役割

日本に限らず世界規模で高齢化は進展しています。日本では皆保険制度により健康寿命を延ばしてきましたが、現在様々な問題、課題に直面しています。この状況、特に増加する高齢人口や終末期のさまざまな健康ニーズに対応するためには、病気の治療に重点を置く現行の保健医療システムは、高齢者の生活の質（QOL）を重視するシステムに移行しなければなりません。日本はUHCを維持するために医療費を抑えながら質を向上していくための課題に取り組んでいます。そのプロセスの中で大切なことは何でしょうか?

WHO神戸センターでは、キングス・カレッジ・ロンドンと共に『終末期の高齢者の生活の質を最大限に高めるためのサービスモデル』に関するスコーピング・レビューや『慢性疾患を抱える高齢者の生活の質や保健サービスの利用を最大限に向上させるサービス提供モデルの構築』研究に取り組みました。健康な高齢化には、長生きだけではなく、徐々に進む機能低下に適応しつつ、できる限り充実した生活を送るための考慮が必要です。加齢は複数の合併症やフレイル、何年も続く長期的な機能低下を引き起こすため、つらい症状や不安の軽減が重要です。保健システムの中に、緩和ケアと終末期ケアを取り入れていくことが重要なのです。これからも、WHO神戸センターは終末期の高齢者の生活の質を最大限に高めるサービスのモデルという重要なテーマについて研究を通してエビデンスを構築し、保健医療人材開発とともに、日本のもつ専門性や見地をグローバル世界のUHCの発展にむけて発信し続けます。

おわりに

今回UHCについて学び、患者さんの疼痛・うつ・不安等の症状コントロール、フレイル・認知機能・衰弱・転倒予防等の心身機能の維持、ケアに対する満足感、人としての尊厳保持、ヘルスサービスの利用等の重要性を再確認しました。チームアプローチを基盤にした当院の取り組みが、長寿社会における緩和ケアに貢献できるよう、新たな取り組みにチャレンジしながら前進していきたいと思います。（副院長・看護部長 大串　祐美子）

受賞報告

「社会実装を目指した専門的・学際的がん研究：がんトランスレーショナル・リサーチとがん対策推進活動」が第25回一般社団法人日本癌治療学会 中山恒明賞を受賞

2019年2月13日に開催された理事会において、日本癌治療学会の理事、監事17名を選考委員とし、第25回一般社団法人日本癌治療学会中山恒明賞の厳正かつ慎重な審査が行われました。その結果、西山正彦当院副理事長の研究“社会実装を目指した専門的・学術的がん研究：がんトランスレーション・リサーチとがん対策推進活動”の受賞が決定しました。ここに、賞を受けての喜びの声をお届けします。

副理事長　西山　正彦

トランスレーショナル・リサーチという領域は、新たな医学的、科学的発見を、社会的に発展させ臨床現場で実用化するための橋渡し的な役目を担う研究です。基礎研究によって発見された有望な治験、技術、すなわちメディカル・シーズ（医療の種）は、数多くの過程を経て実用化に至ります。この過程は、厳しい取捨選択の世界なのです。

例えば医薬品の開発でいうと、許可を受けて世に出る確率は、わずか1/30,000（0.003%）ほどに過ぎません。この確立をいかに高め、いかに早く患者さんに新しい医療を届けるのかが、トランスレーショナル・リサーチの最大の課題です。現在、新規創薬を目指して、トランスレーショナル・リサーチは次の段階へと進んでいます。いかに有用なメディカル・シーズを同定するか、その最初の過程の重要性を少しでも認識いただければ幸いです。

“いち早くよりよい医療を患者さんのもとに届ける”、これを実現するためにトランスレーショナル・リサーチは多岐にわたる過程を有し、各々の専門家が同じコンセプトのもとチームとなって初めて機能します。私一人ででも、1つの研究所だけでもなしとげることはできません。多くの方々のご協力があってこそ、今があります。この度の受賞と、ご協力いただきました皆さまに、心から感謝を申し上げます。

（中山恒明賞　受賞記念講演“がんトランスレーショナル・リサーチ　新規がん治療開発への挑戦”より）

海外研修報告

カルバリー病院研修（2019年10月28日～11月15日）

内科部長　長岡　康裕

今回、2019年10月下旬から約3週間の米国ニューヨーク市カルバリー病院での研修に派遣していただきましたので報告致します。私の当院着任は2019年春で、医師歴は四半世紀になりますが緩和ケアに関しては経験不足であり、このような貴重な研修に派遣していただくことは大変ありがたいことだと思います。

カルバリー病院は「non-abandonment（決して見捨てない）」を理念に120年続く米国で最も歴史のある緩和ケア専門病院です。当院は1990年から姉妹提携を結び30年近く交流を続けており、2011年からは毎年、医師、看護師を数週間の研修に派遣し多くの学びを得ております。

今回の研修は主にカルバリー病院のPCI（緩和ケア研究所）所長Robert A. Brescia先生のもとで行われ、内容は患者さんの身体症状の緩和治療はもとより、患者さん自身やご家族のスピリチュアルケア、ブリーフケアなど多岐に渡るものでした。私は英会話が不得手ですが、ドクターやスタッフの方々は非常にやさしく、丁寧に教えてくださり、実りが多く、長年の東札幌病院の諸先輩方が築いてきた友好関係の深さを感じる研修でした。米国特有の多人種、多宗教などの社会的事情に新鮮な驚きと日本との違いを感じる一方で、我々の東札幌病院と似た特徴を垣間見ることも多くありました。両病院に共通する私の感想としては、それぞれ、歴史があり、建物も年を経ているのに非常に良く手入れされていて、清潔で明るく古さを感じない、また、豊富な人材に恵まれていると感じました。各職種はそれぞれの役割を着実に行い、多職種チームカンファレンスやそれ以外の場面でも密に連携していました。

病に苦しむ患者さんへの最良のケアは、人、物、時間などあらゆる面で豊かな環境と、誠実な精神とで形成された医療体制により提供することができる。患者さんは何を必要としているのかを常に考えケアを行い、組織づくりをし、日々積み重ねていく、そういうことが大切なのだなと実感いたしました。カルバリー病院では「non-abandonment（決して見捨てない）」の理念が、院内で働く人々だけでなく、建物や設備、置いてある調度品一つ一つにまで浸透し、すべてが繋がっている、そのような印象を強く受けました。そして、我が東札幌病院も、同じように「医療の本質はやさしさにある」の理念が、病院全体に浸透し、繋がっていると思います。今回の経験を当院の発展や、地域の患者さんに貢献できるようにより一層努力したいと思います。

文末になりますが、派遣してくださいました石谷理事長、照井院長、受け入れていただいたカルバリー病院の方々、そして渡航前後の期間の業務や準備などを支えてくださった諸先生、各部署の方々に心から感謝申し上げます。

ロバート　ブレシア先生（左端）とマイケル　ブレシア先生（右端）と

東PCU病棟主任　笠巻　暁代

10月28日～11月15日、ニューヨーク市カルバリー病院での研修の機会をいただきました。カルバリー病院は、成人に対して緩和医療が提供されている急性期病院であり、創傷治療においては近隣の州から創傷センターの認定を受け優れた専門治療が行われています。入院期間は平均30日以下であり、4割は9日以内に死亡します。終末期の症状マネジメントが困難な対象に高いレベルのケアが行われていました。パストラルケア、ファミリーケアを中心に日本よりも患者家族をサポートする多職種が勤務しており、グリーフケアに種々の専門的プログラムが実施されていたことは印象的でした。今年から新しく心不全の緩和についてのガイダンスが準備されていました。現在10～20名の患者がおり、症状緩和に功を奏しているとのことでした。カルバリー病院でも入院患者の半数は非がん患者です。日本でも心不全の症状緩和に緩和ケアチームの診療加算が認められるようになっており、今後の動向を注視したいと思います。医師の回診に同行して印象的なのは、目線を合わせる、スキンシップをはかり愛情表現をする、コミュニケーションに信頼関係が伺えることでした。ある医師が最も重要なことは家族教育である、と話されていましたが終末期の状態に動揺する家族も多く、同感です。

アメリカはそもそも多民族国家であり、言語、宗教、食事、文化等多様な対応が求められます。入院時にそれらの情報は各部門で迅速な調整が行われ、「家庭にいるような」ケアが展開され、いかに「心地良く過ごせているか」が評価基準になります。多職種カンファレンスがフロアごとに毎週行われ、ファミリーケアを担当する部門の参加もあり、生活の場として重要視されていることが明白でした。「non-abandonment（決して見捨てない）」と掲げられているように、たくさんのスタッフの関わりがみな慈悲深い対応でした。また看護師の業務が効率的に整理されており残業もほとんどなく当院も今後参考にしたいと感じました。

出発前には言葉や食事など不安もありましたが、カルバリー病院のスタッフはとてもフレンドリーで、雰囲気はホームのようでした。このような恵まれた環境で研修出来ることはとても幸せだと実感しました。この研修は9年目となりますが、このような制度は他には類がなく、是非たくさんの方に体験してほしいです。

この機会をくださった石谷理事長、照井院長、大串看護部長、渡米の準備にご尽力くださった関係者の方々、病棟不在中のフォローに心より感謝いたします。ありがとうございました。

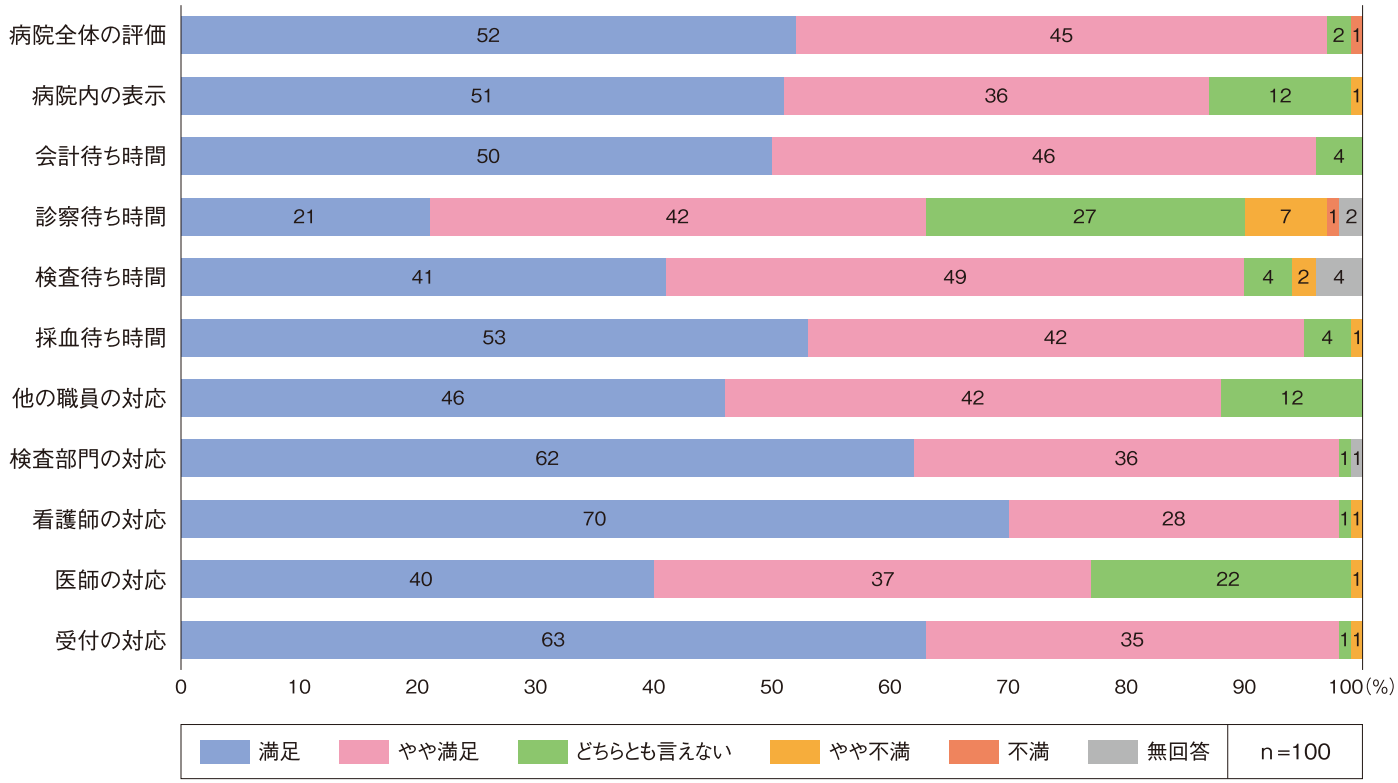
カルバリー病院設立の理念を表すレリーフ

カルバリー病院外観

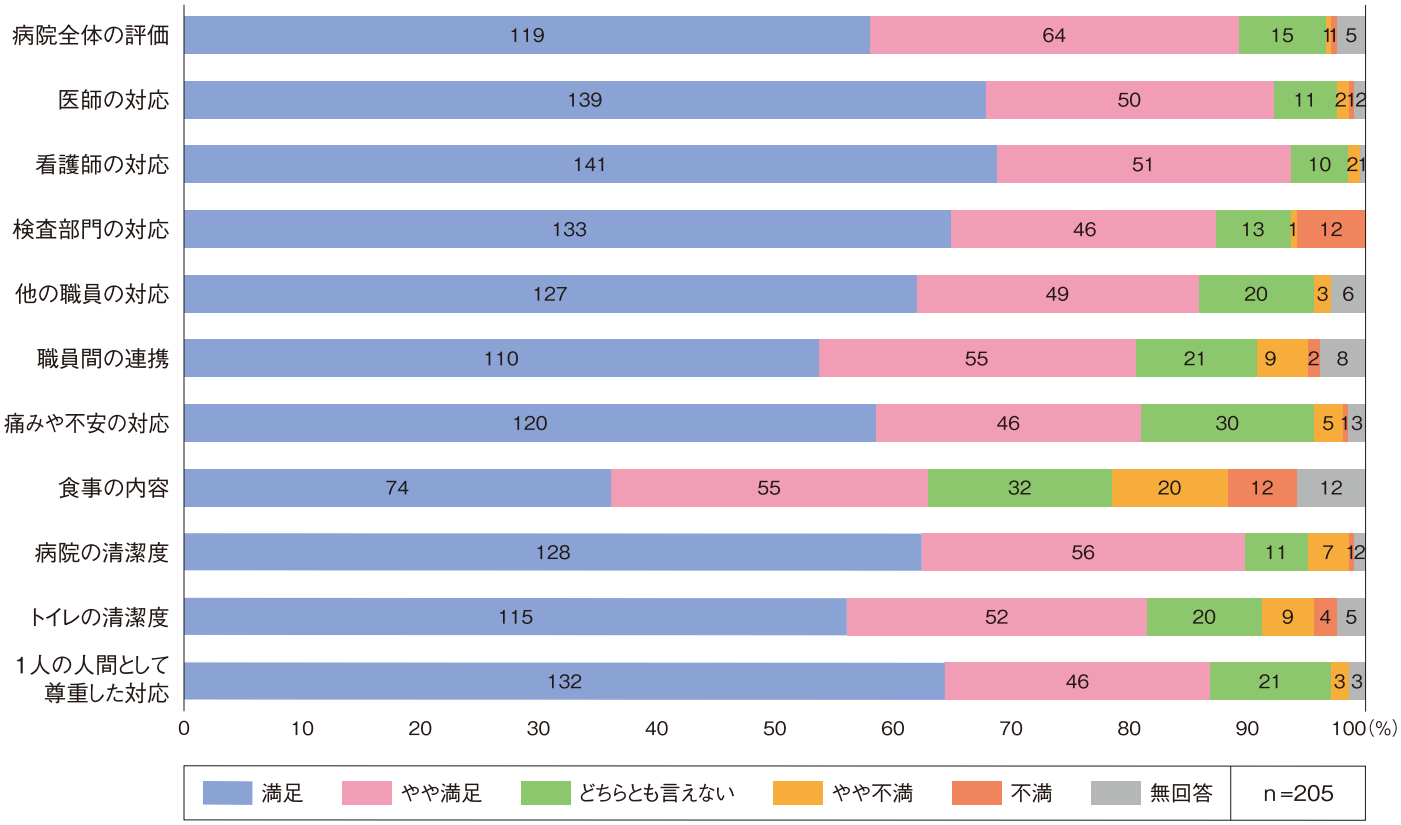
カルバリー病院内のチャペル

満足度調査

外来患者満足度調査　2019年9月実施



入院患者満足度調査　2019年9月実施



今年度は100名の患者さんに協力いただきありがとうございました。

病院全体の評価は、職員の対応、待ち時間に対しては、90%以上の方が満足、やや満足と回答され、昨年に比べ満足度は高くなっていました。たくさん感謝の言葉もいただき、日々の仕事への励みとなりました。しかし、「看護師の対応にばらつきがある」というご意見もあり、スタッフ一同自分を振り返る機会にもなりました。

患者さんが来院してから会計までの待ち時間を最小限に、患者さんが次に何をしたら良いのか理解できる言葉がけ、親切な対応を心がけていきたいと思います。患者さんの声を真摯に受け止め、より満足いただける外来づくりを目指したいと思います。

また、アメニティーに関しての要望はすぐには解決できませんが、椅子の高さや、患者さんの安全を守れるような環境づくりをしていきたいと考えています。

たくさんのご意見感謝いたします。

患者サービス向上委員会
外来看護課長　東　玉枝

患者満足度調査は、患者さん・ご家族が満足する医療を受けることができているかどうかを把握するとともに、どのようなご希望をお持ちなのかを把握するために実施しています。今回は、2019年9月3日～10月16日に行い、205名の方にご意見を頂きました。

病院全体の評価は、「満足・一応満足」89%と多くの方にご満足頂けていました。痛みや不安の対応に対して86%の方には「満足・一応満足」と評価して頂いていますが、3%の方が「やや不満・不満」を抱いていることが明らかになりました。医療チームの連携を良くし、より一層苦痛の緩和に努めていきたいと思います。職員の対応、環境面に関しても細かな要望を頂きましたので、改善できる所は早急に対応していきたいと思います。売店に関する調査では、品揃え、金額設定、営業時間に満足感が得られていないことも明らかになりましたので、多くの方に利用していただけるよう売店職員とともに検討していきたいと思います。また、心温まる感謝のお言葉も多数頂き職員の励みにもなりました。ご協力ありがとうございました。

患者サービス向上委員会
看護部副部長　二井矢　ひとみ

新任医師紹介

2019年11月に着任した医師を紹介します。

外科医長
山口　洋志

札幌医科大学より11月に外科に着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。私は2004年に札幌医科大学を卒業後、第一外科、現在の消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座に入局し、研鑽を積んで参りました。前任地では肝胆膵外科（肝腫瘍、胆道腫瘍、膵腫瘍、胆石症、膵炎等の外科治療）を専門に担当しておりました。また、研究に関しては、日本学術振興会の科学研究費助成事業により、膵管上皮の細胞間接着制御、膵癌や膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）の発癌メカニズムの解明に継続して取り組んでおります。この度、石谷理事長のご高配により、高名ながん専門病院である当院で働く機会を得られたことは、非常に光栄に感じております。当院で、勤務するにあたり私の当面の目標を書かせて頂きます。それは「専門にとらわれず、すそ野の広い安全な外科診療を行う」ということです。皆様ご存じのように、当院は地域に根ざしたがん専門病院として、多様ながん種の方、また近隣地域の方々からの多様なニーズがあり、手術の目的も根治を目指したものから症状緩和を目指すものまで様々です。また、手術を受けて頂く患者さんの状態も、御高齢の方や進行がんの方など様々で、安全性が重要となってきます。これらの多様なニーズに十分に応え、「総合的がん医療」のさらなる充実に貢献できるよう、全力で頑張って行きたいと思います。

Sapporo Conference for Palliative and Supportive Care in Cancer 2020

がん緩和ケアに関する

シンポジウム 1 2020年8月21日(金) 8:00-12:00

オピオイドとがんの痛み：進化するその科学と実践

座長：**Russell Portenoy** (MJHS Hospice and Palliative Care, USA)

副座長：**山蔭　道明**(札幌医科大学)・副座長：**下山　直人**(東京慈恵会医科大学院)

序論
Russell Portenoy (MJHS Hospice and Palliative Care, USA)

オピオイド受容体：構造と機能、そしてその可塑性
Christoph Stein (Charité-Universitätsmedizin Berlin, Germany)

遺伝子多様性(変化性)とオピオイドの損益との調和について
Pål Klepstad (Norwegian University of Science and Technology, Norway)

がん疼痛管理のシステムの変革に向けて－病態全体から痛みを考える
Marie Fallon (University of Edinburgh, UK)

科学的なオピオイド臨床応用の3事例：オピオイド・ローテーション、突出痛への対応、メサドンの役割
Eduardo Bruera (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

【基調講演】"臨床における調和"　最善の臨床を通して、利益を最大に損益を最小に
Russell Portenoy (MJHS Hospice and Palliative Care, USA)

プレナリーセッション

2020年 8月21日(金)
13:00-17:00

オンコロジーと緩和ケアの統合：適切な患者のために、適正な時期に適正な介入を提供する

David Hui (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)
座長：**佐治　重衡**(福島県立医科大学)

血液悪性腫瘍の根治的治療と緩和ケアの統合について

Thomas William LeBlanc (Duke University School of Medicine, USA)
座長：**小船　雅義**(札幌医科大学)

免疫療法治療薬に伴う免疫関連有害事象

Aung Naing (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)
座長：**高橋　孝郎**(埼玉医科大学国際医療センター)

がんリハビリテーションと緩和ケア

Jack Fu (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)
座長：**辻　晃仁**(香川大学)

ランチョンセミナー

2020年 8月21日(金)
12:00-13:00

オンコロジーと緩和ケアの統合、その歴史と未来への方向性

Stein Kaasa (Norwegian University of Science and Technology, Norway)
座長：**照井　健**(東札幌病院)

完全同時通訳

第三回 がん緩和ケアに関する国際会議

主催　医療法人 東札幌病院　　大会長　照井　健(医療法人東札幌病院)

国際会議

第３回札幌カンファランスのご案内

第3回札幌カンファランスのプログラムが決定いたしました。世界の第一線で活躍する研究者の方々に、興味深いテーマでご講演いただく内容となっており、活発な意見交換も期待され、これまで以上に熱を帯びたカンファランスとなることと思います。また、今回は初の試みとして一般演題の募集も行いました。最新情報は公式サイトで随時掲載して参りますので、こちらもご参照ください。（http://www.sapporoconference.com/）

シンポジウム 2　2020年8月22日（土）8:00-12:00

なぜ緩和ケアにスピリチュアル・ケアを組み込むことが必要なのか

座長：**Christina Puchalski** (George Washington University, USA)
副座長：**Betty Ferrell**（City of Hope Comprehensive Cancer Center, USA）
副座長：**渡邊　知映**（上智大学）

【基調講演】チームによるスピリチュアル・ケア：アセスメントから実際の患者サポートまで
Christina Puchalski (George Washington University, USA)

スピリチュアル・ケアにおけるコミュニケーションについて
Betty Ferrell (City of Hope Comprehensive Cancer Center, USA)

スピリチュアル・ケアの介入を支持するエビデンスについて
Karen Steinhauser (Duke University School of Medicine, USA)

スピリチュアル・ケア専門家から視た緩和ケア
Anne Vandenhoeck (Katholieke Universiteit Leuven, Belgium)

“スピリチュアル”な苦悩と向き合う－欠くことのできない症状コントロールとして
Marvin Delgado (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

プレナリーセッション

2020年 8月22日（土）
13:00-17:00

緩和ケアの実存的問題におけるサイコオンコロジーの役割
Friedrich Stiefel (University of Lausanne, Switzerland)
座長：**中村　健児**（東札幌病院）

実存的脅威に直面する患者とのコミュニケーションについて
Peter Salmon (University of Liverpool, UK)
座長：**大西　秀樹**（埼玉医科大学国際医療センター）

実存的に苦悩する患者はいかに臨床医に影響を与えるか
Sarah Dauchy (Institut Gustave-Roussy, French)
座長：**清水　研**（国立がん研究センター中央病院）

「死と死に逝く過程を語ること」の緩和ケアにおける功罪について
Camilla Zimmermann (University of Toronto, Canada)
座長：**中川　俊一**（Columbia University Medical Center, USA）

ランチョンセミナー

2020年 8月22日（土）
12:00-13:00

緩和医療学の哲学と宗教の関係について
Frank Brescia (Medical University of South Carolina, USA)
座長：**三宅　智**（東京医科歯科大学大学院）

会期　2020年 8月21日（金）・22日（土）

会場　札幌パークホテル　〒064-8589 札幌市中央区南10条西3丁目 TEL 011-511-3131　http://www.park1964.com/access/

事務局　医療法人 東札幌病院　〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35 TEL 011-812-2311　FAX 011-823-9552　E-mail: office@sapporoconference.com http://www.sapporoconference.com

石谷理事長の
スキー
讃歌
その24

札幌医科大学スキー部
ノスタルジア(Nostalgia) 後編

前号に引き続き札幌医科大学スキー部60周年記念パーティーでの後町洋一先生の講演を掲載します。

＊　＊　＊　＊　＊

東日本医学生体育大会(東医体)スキー大会に関連したエピソードをお話しします。札幌医科大学が東医体に出場したのを聞きつけて北大医学部が、第2回大会後に「自分達も参加したいので詳細を聞きたい」との連絡があり、井出さん、服部さんの2名が来校、我々の経験を説明しました。その後北大医学部も東医体に参加し常勝軍団を作ってしまいました。時には一緒に合宿したこともありました。西日本医学生体育大会(西医体)スキー大会は東医体スキー大会より10年も前から組織されていました。我々主管のニセコ大会以降東医体スキー大会も軌道に乗ると思われたので、「一緒に全日本大会をやらないか」と声を掛けたのですが、伝統が違うと断られたのは心外でした。

北海道学生スキー大会のお話をしましょう。北大全学、札幌医科大学、北海学園大学とで協議し北海道学生スキー大会(北海道インカレ)を組織しました。当時札幌医科大学学長(初代)大野精七先生は札幌スキー連盟の会長でもありました。その大野先生の協力を得て、円山競技場、三角山スキー場、荒井山森永シャンツエで初めて北海道の学生スキー大会が開催されました。ディスタンス、アルペン、ジャンプの3種目がありました。かなり長く続いたと思います。

大野精七先生は宮様スキー大会の生みの親としても知られています(「窓」70号参照)。ノルウェイのホルメンコーレン大会のように誰でもが参加できる大会を開催したいと考えておられました。大会用のジャンプ台が必要であり秩父宮様が大倉喜七郎男爵に口添えして下さり、昭和 6年に当時無名の山に60メートル級のジャンプ台が完成しました。そのご縁で大倉シャンツエと名付けられ、昭和45年に大倉山ジャンプ競技場と改称されました。そこには大倉男爵顕彰碑、大野精七博士顕彰碑、そして「虹と雪のバラード」で名高い河邨文一郎教授の詩碑が建立されています。札幌医科大学とスキーは古くから縁が深く、そして我がスキー部は札幌医科大学の歴史そのものです。東医体の活動は単にスポーツ競技ではなく今後の臨床、研究の基礎となります。怪我をしないで真面目に取り組んで頂きたいです。今回の会を企画した塚本会長他役員の皆さんに心から感謝いたします。(完)

外 来 医 師 ス ケ ジ ュ ー ル

内　科

（令和2年2月1日～）

	診療時間		月	火	水	木	金	土
午前	9:00～12:00	1診	照井	平山	照井	平山	照井	交代制
		2診	石谷	伊藤	石谷	中村	町野	
		3診	日下部	長岡	渡邉	長岡	日下部	
		4診	伊達	石谷	伊達		三原	
		5診	髙木	古谷	髙木	秋津（～11:30）	秋津（～11:30）	
		7診	久村		三原			
		8診	二階堂	二階堂	二階堂	二階堂	9診 二階堂	
午後	13:30～17:00	1診	三谷	小野	平山	須釜	三谷	休診
		2診	中村	札幌医大出張医	札幌医大出張医		札幌医大出張医	
		3診	町野	渡邉（～16:30）	町野	伊藤	須釜	
		4診		三原	小野	伊達	中村	
		5診	秋津			髙木		

外　科

	診療時間		月	火	水	木	金	土
午前	9:00～12:00	6診	柏木／山口	柏木	空閑	山口	柏木	交代制
		7診		大村（乳腺・甲状腺）		大村（乳腺・甲状腺）		
	9:30～12:00（整形外科）	8診					江森	
午後	13:30～17:00	6診	柏木／山口		山口		山口／空閑	休診
		7診		大村（乳腺・甲状腺）				
	13:30～17:00（整形外科）	5診		井須	井須			

口腔外科（予約制）

	診療時間	月	火	水	木	金	土
午前	9:00～12:00	水越 ／ 太子 ／ 髙田 ／ 石谷					交代制
午後	13:30～17:00	水越 ／ 太子 ／ 髙田 ／ 石谷					休診

※土曜日は交代制となっております。詳細はお問い合わせください。
※当院では、待ち時間短縮のために予約制を導入しております。予約外診療も行っております。詳細は受付にお問い合わせください。
※乳腺外来（緊急以外は、要予約）
　毎週火曜日／9:00～11:30、13:30～15:00　木曜日／9:00～11:30　担当医師：大村
※禁煙外来（予約が必要です）
　毎週木曜日・金曜日／11:30～12:00　担当医師：秋津

●交通のご案内
地下鉄東西線「東札幌駅」より
徒歩5分

駐車場について

当院の駐車場はゲート式になっております。駐車場ご利用の方は、受付または事務室にて駐車券をご提示ください。ご利用料金は以下の通りです。

ご利用料金

外来受診・お見舞いなど、当院ご利用の方は、3時間無料です（以後30分50円）。

医療法人東札幌病院は、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価（一般病院2　3rdG: Ver.1.1）、付加機能（緩和ケア機能）の認定を受けています。

■認定期間
2015年9月26日～2020年9月25日

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構
認定第 JC669 号

一般病院2　3rdG:Ver.1.1

Higashi Sapporo Hospital

医療法人 東札幌病院

〒003-8585
札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35
電話 011-812-2311（代表）
FAX 011-823-9552
E-mail: info@hsh.or.jp
HP:http://www.hsh.or.jp

東札幌病院は皆様に次のような権利があることを認め尊重致します。

1. 医療を受けるにあたって、大切な一人の人間として尊重されます。
2. 受診される方の個人情報やプライバシーが守られます。
3. 病状や病名・検査結果、受ける処置やケアの内容等について十分な説明を受けられます。
4. 適切な説明のもとに受診される方の意志が尊重され、最良の治療やケアが選択できるように支援されます。
5. 身体的なことだけではなく、必要に応じて社会的・心理的な事柄に関しても支援されます。
6. 療養の経過すべてにわたって、ご希望されれば複数の医師の意見を求めることができます。
7. 最善で安全な医療と必要な健康教育をうけることができます。
8. 医学研究等に参加をお願いすることがありますが、拒否することによって不利益を被ることはありません。

東札幌病院を受診される皆様に御協力いただきたいこと

1. 心身の健康に関する情報について担当者にお伝え下さい。
2. 医療者の説明が不十分な時には、十分理解できるまで質問して下さい。
3. 治療やケアの方針を決めるときには、ご遠慮なく医療者と話し合って下さい。
4. 医療者と共につくった治療やケアの計画に積極的に参加して下さい。
5. 院内では常識的な社会人として行動して下さるようお願いいたします。
6. 東札幌病院は全館禁煙です。ご理解とご協力をお願いいたします。
7. 東札幌病院では各階に提案箱を設置しております。ご意見やご要望がありましたらご遠慮なくご利用下さい。